

インフルエンザの



患者さん・ご家族・周囲の方々へ

インフルエンザにかかった時は、飛び降りなどの異常行動をおこすおそれがあります。

特に発熱から2日間には要注意！

窓の鍵を確実にかけるなど、異常行動に備えた対策を徹底してください。

●異常行動による転落等の事故を防ぐためのお願い

- インフルエンザの患者さんでは、**抗インフルエンザウイルス薬の服用の有無や種類にかかわらず**、異常行動に関連すると考えられる転落死等が報告されています。
- 異常行動は、**①就学以降の小児・未成年者の男性で報告が多い(女性でも発現する)**
②発熱から2日間以内に発現することが多いことが知られています。

異常行動の例



突然立ち上がって部屋から
出ようとする



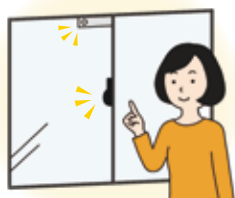
興奮して窓を開けて
ベランダに出て、
飛び降りようとする



人に襲われる感覚を覚え、
外に走り出す

- 突然笑い出し、階段を駆け上がろうとする
- 自宅から出て外を歩いていて、話しかけても反応しない
- 変なことを言い出し、泣きながら部屋の中を動き回る など

- 万が一の転落等の事故を防止するため、発熱から少なくとも2日間は、就寝中を含め、特に小児・未成年者が容易に住居外へ飛び出さないために、例えば、以下のような対策を講じてください。



玄関や全ての部屋の窓
を確実に施錠する
(内鍵、チェーンロック、
補助鍵がある場合は、
その活用を含む)



窓に格子のある
部屋がある場合は、
その部屋で寝かせる



ベランダに面して
いない部屋で寝かせる



一戸建てにお住まいの
場合は、できる限り
1階で寝かせる